



【浮穴小学校】

＜全学年：花の命を育もう＞

本校では、「花いっぱい運動」を継続して行っており、校内のフラワーパークに咲く美しい花々が児童にとって誇りとなっている。そこでは、全校児童がそれぞれ一鉢の花を育てる取組を通じて、命の大切さや思いやりの心が育まれている。1年生は、アサガオの種やチューリップの球根を植え、小さな芽が顔を出すと名前をつけたり、「早く大きくなってね」と声を掛けたりしながら成長を見守っている。毎日の水やりを楽しみながら植物への愛情を深め、関心をもって植物を育てている様子がうかがえる。また、本校では、一生懸命育てた一鉢の花たちが卒業式や入学式の会場を彩る伝統がある。5年生は、自分たちが育てたパンジーが卒業式での花道に使われることを見据え、花がらを丁寧に摘み取ったり、雑草を抜いたりして心を込めて世話をしている。公民館主催の「朝顔コンクール」にも毎年1・4年生が作品を出品しており、地域行事に参加しながら植物栽培への理解を広げている。このような活動を通じて、児童たちは四季折々の花を楽しみながら、学校生活をさらに豊かなものにしている。



＜第1学年：昔の遊びを体験しよう＞

今年度は、昔の遊びを体験する活動を久しぶりに実施した。ここ数年、地域の「昔の遊び名人」と呼ばれる方々との交流ができていなかったが、今年度は再びご協力いただき、活動を実現することができた。当日は、こま回し、羽根つき、おはじきなど、計6種類の昔の遊びを行った。家庭では、ゲームや動画視聴が主な娯楽となっている児童が多く、どの遊びも新鮮に感じたようで、児童は笑顔で楽しみながら取り組んでいた。活動後、教室に戻ってからも、「またやりたい」「もっと遊びたい」といった声が多く聞かれ、児童にとって非常に満足度の高い活動となった。このような活動は、児童の興味・関心を広げると同時に、地域と学校の連携を深める貴重な機会となる。今後も、地域の方々の協力を得ながら、継続して実施していきたい。

